

プロジェクト名：価値論研究のための準備作業：労働価値説、客観価値説、

## 効用価値説の包括的な理解に向けて

プロジェクト代表者：結城 剛志（経済学部・准教授）

### 1 研究目的、研究の進め方

「経済学史・経済理論史の観点から価値論を整理・分析する。同時に、価値論の内在的かつ発展的な理解を獲得するために、理論経済学の分野で一定の研究成果を提出している泉正樹准教授（東北学院大学）との共同研究を構想する。」という研究目的および研究計画にしたがい、「平成 25 年度の科研費・基盤研究（C）の申請において取り組まれるべき研究計画の準備作業」を進めた。

「埼玉大学および東北学院大学において価値論研究会を開催」し、平成 25 年度の科研費・基盤研究（C）に研究分担者として応募した。その際、研究会での討議を経て、研究テーマを「信用貨幣論をめぐる論争史：商品貨幣、表券貨幣、国定貨幣の包括的理解に向けて」に改めた。価値論研究に着手するためには、その前段として、貨幣・信用論に取り組まれるべきことが確認されたためである。

### 2. 研究成果

以下の研究成果を公刊することができた。

（学術単著）

『労働証券論の歴史的位相：貨幣と市場をめぐるヴィジョン』日本評論社、2013 年

（論文）

「背理の先に何があるのか：反資本主義、労働証券、労働者自主管理」『季刊・経済理論』第 49 巻第 3 号、2012 年、39-51 頁、査読あり

（その他）

「労働貨幣論から労働証券論へ：異端の貨幣・信用制度改革論史」『変革のアソシエ』No.9、2012 年、87-89 頁

「国際協同組合年に臨む」『埼玉新聞』朝刊、2012 年 6 月 15 日付、5 面

研究テーマの軌道修正を行ったとはいえ、十分な研究成果を提出し、継続して取り組まれるべき研究課題が明らかにされたという点で、本プロジェクトの目的は達成されたといえる。